

～盛岡浄瑠璃人形の復活公演を目指して～

平成26年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：盛岡浄瑠璃人形の調査・保存活動と復活公演を目標とした基礎的検討
研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 土井章男
課題提案者：鈴木茂(株)東レ
研究メンバー：瀬川修(岩手県立博物館)、長内努(もりおか町屋物語館)
技術キーワード：震災復興、街おこし、地域コミュニティ、文楽、3Dプリンタ

▼研究の背景・目標

盛岡市内で発見された浄瑠璃人形、錦絵、ひな人形は貴重な資料であり、X線CT装置を用いた計測&解析や3Dプリンタを用いたモデル構築事例は世界初の試みである。また、制作した人形浄瑠璃のレプリカモデルを用いて、淡路人形座による復活公演を行い、その有効性を示した。

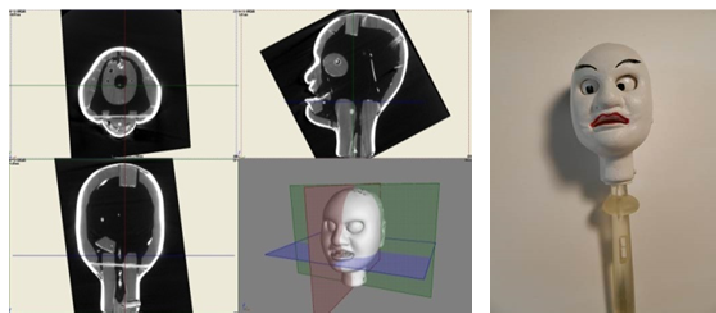


図1 X線CT計測

図2 頭部モデル

▼研究の内容(方法・経過)

浄瑠璃人形に対して、頭部(かしら)の部分と烏帽子部分をX線CT装置で計測し、内部構造を調査した(図1)。浄瑠璃人形の内部をCT画像で解析した事例はほとんど報告されておらず、全体の仕組みや内部構造の詳細な解析が期待されている。次にCT画像からかしらの部分の表面部分を再構成し、頭部モデルを作成した(図2)。さらに着物、腕、扇子、内部の肩板、胴輪(図3)、衣装(図4)を制作した。

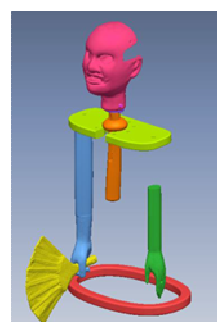


図3 腕、扇子、肩板



図4 衣装のプリント

▼研究の成果(結論・考察)

本研究で得られた成果は、

- 1) 資料の図録作成とデジタル化
 - 2) 人形劇の復刻・公演に関する調査・研究
 - 3) 浄瑠璃人形の計測・解析・精巧なレプリカモデル制作(三番叟(図5)、千歳)
 - 4) デジタルデータの保管、ワークショップ開催
- である。



図5 製作したレプリカ人形(盛岡浄瑠璃(三番叟))

▼おわりに(まとめ・今後の展開)

「盛岡の人形浄瑠璃復活事業」が平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金に採択された。また、淡路人形座(南あわじ市)の協力により、盛岡市で三番叟の復活公演(平成27年9月12日、人形浄瑠璃ワークショップ、盛岡市もりおか町家物語館)を行った。平成28年度も文化庁文化芸術振興費補助金の支援を得て、同様な活動を行っている。

本研究は、岩手県立大学地域政策研究センターより研究支援を受けました。盛岡市教育委員会歴史文化課の権藤祐子様には、文化庁申請「盛岡の人形浄瑠璃復活事業」申請に関してお世話になりました。